

柳井市古市・金屋 伝統的建造物群保存地区 (白壁の町並み)

1984(昭和59)年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。柳井の町並みの特徴は、江戸時代から明治中期以前に建てられた本瓦葺や檼瓦葺の2階建て、外壁や軒裏を白漆喰で塗り込めた土蔵造りの町家である。最も本流をなしている形式は入母屋造りの妻入りであり、切妻造りの妻入り、平入りも混在している。

① 白壁ふれあい広場

白壁の町並みの玄関口として1988(昭和63)年オープン。観光大型バス用の駐車場、休憩所、トイレ等を設置している。

② 松本清張文学碑

「花実のほい森」の「白壁と川のある街」の一節が刻まれている。1997(平成9)年設置された。

③ 白壁まちかど広場

ふれあい広場より白壁の町並みへの連絡路として1990~92(平成2~4)年に整備。1994(平成6)年に建設大臣(当時)「手づくり郷土賞」を受賞している。

④ ケヤキの巨木(やないの巨木)

体育館一帯はもとは柳井高等学校のあった所、校庭に植えられ大きくはたもので、高さ約6m、目通り幹囲26%の巨木。

⑤ 秋葉神社(火伏せの神)

1899(明治32)年に建立された。かつては80m西寄りであったが、昭和初期に現在地に物鎮められたといわれている。火伏せの神で、祭日の2月14日には古市や尾の上の人々をはじめ多くの参拝客がある。遊歩道。

⑥ 宝来橋(古は古市橋、善元橋と呼ばれた)

柳井で最も歴史の古い橋。商品は宝物で、その橋が来ることにより町が富むところからつけられた橋名。現在は仮橋であるが、橋の下には立派な石組が残っており、親柱は列の場所に大切に保管されている。

⑦ 愛宕地蔵尊(火伏地蔵)

江戸中期に4度大火があり、柳井の商人は建物のつくり方を工夫して防火に備える一方、信仰によって防火をいかけた。この地蔵は、宝暦年中(1751~63年)に古市・金屋の人達が建てたもの。地蔵の前に「天保五年(1834年)」と書かれた永代常夜灯がある。8月24日に供養が行われている。

⑧ 雁木(かんぎ)

付近一帯は船着場で、この階段を使って荷揚げされていた。潮の干満で水面が上下しても船の発着ができるように工夫してある。半が階段が空蔵がカンの行列に似ているところから名付けられたものといわれる。

⑨ 藤棚

5月のはじめに美しい花を咲かせていた。

⑩ 沖見灯籠

昔は何ヶ所かの船着場に設けられ、入港する船が沖から何番目が目的地かわかる仕組みになっていた。

⑪ 緑橋

昔「緑町」という地名があり、それが橋名の由来。現在は仮橋で、「昭和三年(1928年)」の親柱が、橋の下には立派な石組があり、石積水路の排水口がつけられている。

⑫ 八潮の船流し

旧暦8月1日夕刻の満潮時に大きき約45cmの親母船をつくり、娘が早く良縁に恵まれるようにと親が願いこめて川に浮かべるとい風習があった。大正末期に途絶えていたが、2000(平成12)年、「白壁の町並みを守る会」が「柳井市郷談会」の協力を得て復活させた。

⑬ 琴泉酒造、血田家

血田家の初代千蔵は、1812(文政9)年木綿商を始めたが、1837(天保8)年に酒造業を始めた。「旭寿」の名で知られる。新酒の出来る2月頃には杉玉が新しくなる。血田家住宅は1908(明治41)年建築、横にある不浄門は当主がそくなく、土時遺体を運出す時以外は開かれない。

⑭ しらかべ学遊館

本郷家を改修して2004(平成16)年に開館した。柳井の伝統や文化に関するテーマに沿った民俗資料を展示している。

⑮ 伝統的建造物群保存地区西側とその周辺

東側に比べると、平入りの建物が多いのが特徴。**旧安田百貨店**：明治時代の建築と考えられ、昭和初期に前面を洋風に改築されている。**安田家**：1923(大正12)年、雑貨商を営むため建築。**栗原家住宅**：建築年代は江戸中期までさかのぼり、柳井で最も古い建物の一つ。2019(平成31)年改修。**草場家(旧草場)**：平入りの土蔵造りで、江戸後期~明治初期の建物と考えられている。現在は解体済み。**辻家**：大正年間建築で、伝建地区内で最も大きな屋根を持つ町家。外観は和風意匠としながら小屋組には洋風トラスを用いている。

**栄輪商会**：大正末期~昭和初期に建てられたとされる洋風建築、周辺とよく調和している。**木坂芳夫家**：19世紀はじめに建てられた町家で、門構つきの座敷を持った町家の典型例である。**重枝秀人家**：もとは栗の木坂家具店が川から運搬した家具の置場を使用人の住み兼用で建てられたものといわれている。**重枝醤油店**：甘露醤油やもろみ漬けなどで有名。**難波家蔵**：土蔵の姿と残し、茶房「難波庵」として活用されている。

⑯ 掛屋小路

「掛屋」という金融業を営んだ商家の屋号をとって名付けられた。緑橋のそばの雁木で荷揚げした商品運送の道。

⑰ 石積水路・カニ生息地

柳井の町割は室町時代には並んでいたといわれ、排水溝もその時期につくられたものといわれている。掛屋小路そばの水路の下には、凹型になった石が敷かれている。カニが多く生息しており、両側を中心に、白壁の町並み周辺の道路ではカニが横切るのをよく見かける。看板も立てられている。

⑱ 佐川家住宅

1766(明和3)年、佐賀屋重五郎が初代で屋号は「佐賀屋」。1856(安政3)年、現在の家と建て、甘露醤油の製造を始めた。柳井を代表する江戸後期の町家で、前面には建築当初のがらうが残っている。離れ座敷は明治初年に洋風に改造したと伝えられ、1890(明治23)年には有栖川宮が投宿されたことと知られる。

⑲ 国森家住宅(国指定重要文化財)

屋号は「室屋」で、1768(明和5)年の大火後間もなく建てられたと伝えられている。1800年頃から油商を営む豪商になった。柳井津と代表する白壁の土蔵造り。

⑳ 沖屋糖和堂の引札

明治初期から大正にかけての広告で、色鮮やかなのが特徴。沖屋家で大切に保存されている。

㉑ 木坂家(木坂堂)の看板

店内に創業当時の古い看板などが残っている。

㉒ 尾林家の蔵

もとは質屋の蔵で、江戸中期の建築。そばに地神様をまつ。

㉓ 経道標示板

小瀬上関往還は若国市小瀬と上関と結ぶ全長15里(約60km)の街道。2016(平成28)年設置。

㉔ 佐川醤油蔵

1904(明治37)年に遠崎の秋元酒場から桶もとも物業されたもの。醤油蔵の一部が資料館として公開されている。醤油づくりの諸道具や往年の古い資料が展示されており、時期によっては仕込みなどの実際の醤油づくりも見学可能。

㉕ やない西蔵

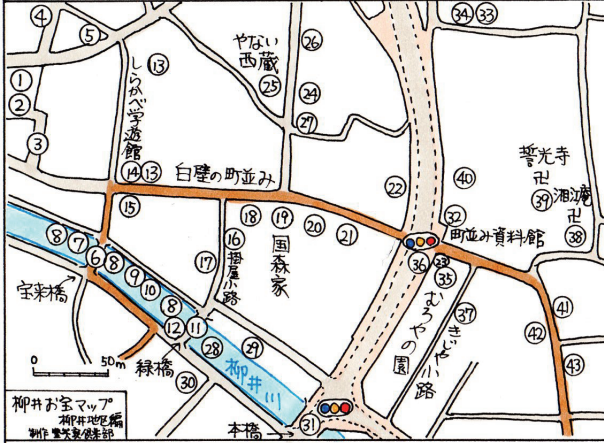
大正時代末期に建築。1980年頃まで醤油蔵として使用されていた。解体の危機により住民による保存運動が行われ、1998(平成10)年所有者より寄贈を受け、2001(平成13)年に体験工房、ギャラリー等の複合型観光施設として生まれ変わった。

㉖ 大神宮社

建立年代不明。もとは湘江庵東側にあったが、現在地に物鎮められたのは1908(明治41)年。1859(安政6)年造営の神殿が今も残る。旧暦5月14日の夜「伊勢」の古文書「奉納俳諧集」には、僧侶庵理主坊の社中が大神宮社の祭りの時に奉納したもので、柳井の町人文化のひとつ。

㉗ 中開作溝(柳井と柳井津とゆるぎ水路)

1689(元禄2)年に落合(柳井北小学校そば)と新市を結ぶ用水路が完成し、かみかい用に使われていた。



㉘ 潮の干満が見られる柳井川下流

付近一帯は、1663(寛文3)年に古開作が干拓されてできた人工の川で、町の中で潮の干満が見られる川は全国的にも珍しい。大潮の日等は午前9時前後、午後9時前後に満潮になる。春から秋にかけての夜には満月が下流方向に真正面に見え、幻想的な雰囲気になる。

㉙ 掛け出し家屋跡

柳井川に面する「裏町川端」では奥行の浅いものが多く、川端に掛け出しをした。はじめは物干し場のようなものだったが、後に居室としての利用を目的に建てられるようになった。本格的に建てられるようになったのは明治中期頃と考えられている。

㉚ 代田八幡宮(御旅所)

1693(元禄6)年に祀られた。代田八幡宮の例祭がある10月には御輿があり、祭典が行われる。夏祭り(田頭祭)のある7月20日前後の日曜日夜にはお迎え提灯がある。そばには1938(昭和13)年建立の新築新築記念碑(「芳蔵」)と刻まれている碑や、1776(安永5)年建立の火伏地蔵がある。

㉛ 本橋

1897(明治30)年に柳井駅(当時柳井津駅)が設置され、駅と柳井津を結ぶ道路がつくられた。1905(明治38)年、柳井村、柳井村、古開作村が合併して柳井町になったのを記念して本橋がつけられた。はじめは木橋で、1921(大正10)年に鉄筋橋となる。現在の橋は2003(平成15)年に架けられた4代目で、歩道と車道との間には1936(昭和11)年の橋の欄干が使われている。

㉜ 柳井市町並み資料館(旧旧防銀行本店、国登録有形文化財)

県内最古の銀行建築で、1907(明治40)年建築。長野宇平治の基本設計、佐藤節雄の実施設計。旧旧防銀行は1898(明治31)年に設立した銀行で、建築当時は県内最大の銀行だった。1998(平成10)年に山口銀行より寄贈を受け、2000(平成12)年復元改修された。1階は観光案内所とふくむ学習施設、2階は日積出身の歌手松島詩子(1905~96年)の記念館となっている。

**「独歩「読書の戒」碑**：国木田独歩が20歳の時麻郷(現、田布施町)にいた頃、小学生の姉妹に本の読み方を教えたことは「書を読むは夕暮どき食らば唯草句読説と要す 静思すること久ければ 義理自然に貫通す」と刻まれている。

**「独歩「山林に自由存す」の碑**：国木田独歩の青年時代の胸像があり、その台座に独歩が愛したことばが刻まれている。

㉝ 松島詩子歌碑

柳井市名誉市民第一号受章記念として1991(平成3)年建立。ヒット曲「マロエの木蔭」の歌詞が刻まれている。

㉞ 市役所跡(震野路通りに建設当時の絵あり)

1933(昭和8)年に完成した旧柳井町役場の新庁舎で、今の「サンビームやない」駐車場付近にあった。1954(昭和29)年市役所となり、1984(昭和59)年に南町に現庁舎が完成するまで、柳井市役所の方舎であった。現在の市役所1階に模型が展示している。

㉟ 商家博物館「むらやの園」(小田家住宅)

「むらやの園」は、屋号「室屋」とし、1688(元禄元年)創業した油商だった。南北119m(道路幅幅前)、面積約2400㎡もあり、江戸時代の現存する商家としてはわが国で最大規模といわれている。1979(昭和54)年、生活用品153点、文書1011点ともに山口県有形民俗文化財に指定された。1980(昭和55)年より、町家の内部と商家資料を公開している。

**「種田山頭火句碑」**：「また旅人になるあたらしいウオレいちまい」1939(昭和14)年むらやの園裏にあつた書店「種田文友堂」に一時、翌朝文友から新しいウオレ一枚と并当をもらって旅立つ時に詠んだ句。背面には藤田文友の句「進たよまよとび煙が背し」が刻まれている。1985(昭和60)年、柳井市郷談会にて建立される。

**「祇園社」**：小田家の屋敷神で、代々高亮繁盛と祈願してきた。毎年6月8日に神主を招いて祭事が行われる。

**「むらやの園西側の水路」**：白壁の町並みは江戸時代に大火に遭い、その後に盛土して家が建てられたと考えられているが、大火に遭う前の旧水路が2003(平成15)年に見つかり、保存整備された。

㊱ 書状集箱(ポスト)

1871(明治4)年郵便事業創設当時使用していた型と同じものを、白壁の町並みにあわせて1989(平成元年)に設置されたもの。他、ポストと同様に収集も行っている。

㊲ きじや小路(木地屋小路)

町角に「木地屋」という商家があり、その屋号をとって名付けられた。「木地屋」は貞末とい柳井の代表的な木綿問屋だった。

**「菓予民芸茶屋きじや」**：木地屋(貞末家)のあった所で、江戸後期~明治初期と推定される建物。小路の西側の建物は茶がゆ等が食べられる食堂に改装。東側は金魚ちゃん製作の見学ができる土産物店に改装されている。

**「玉野野家(金屋彦右衛門)」**：江戸時代の建築と考えられている。屋号は平野屋とい、小間物問屋であった。

**「柳井日日新聞」**：大正時代と推定される建物で、当初は3戸続いた。金魚の装飾は近年されたもの。

㊳ 湘江庵(曹洞宗)

1666(寛文6)年、鉄山存作和尚の開山と伝えられている。現在の本堂は1728(享保13)年の火災後再建されたものである。

**「柳と井戸」**：「柳井」の地名発祥の地。豊後国(大分県)の清野長者の娘、船遊姫が、大瀬戸で遭難した時、一行が柳井に上陸し、井戸の清水を飲まれ、お礼に井戸の傍に楊梅をまき、この柳が一夜で芽を吹いた。以来楊梅(柳井)と呼ばれたという。柳の木は2005(平成17)年5代目に植え替えられ、4代目の切株が展示している。

**「柳井山の碑」**：国森家の前身、守田家の四代が、柳井の木にも奇進した。守田家通は国守者であり、柳井の郷土史家でもあった。

**「野口雨情詩碑」**：春が来たやら湘江庵の井戸の柳の芽が伸びると刻まれている。「柳井小唄」の第二連。1986(昭和61)年に柳井市郷談会により建立される。

**「一目玉鉦歌碑」**：1980(昭和55)年建立された。「丸雪ふる今朝の嵐の吹落る柳井の底にたく玉水」1689(元禄2)年に井原西鶴が全国の名勝・旧跡を詠んだ歌を集めて出版したものの一つ。この時、柳と井戸が既に全国で紹介されていた。

**「虚空蔵堂」**：日本三体の虚空蔵として知られている。1543(天文12)年創建。今の建物も1852(嘉永5)年再建。毎月24日が縁日。

**「大友大権現」**：周防大島町屋代の大野家の次男友之丞が1799(寛政11)年新羅に死せられ、龍心寺境内に祀られ、分院が湘江庵にある。首から上の病に交力能があるといわれている。

㊴ 誓光寺(浄土真宗)

応仁(1467~69)年の頃開基。3世教願の代に白濁より柳したと伝える。江戸時代には柳井坊主職とい地位をもち、大島郡、熊毛郡、玖珂郡に33余寺の末寺。末庵を抱えた。本堂は大寺にふさわしい規模の大きな建物で、正徳年中(1711~16)年の建立といわれている。

**「皆楽庵理主坊句碑(からみ川川口)」**：「消ゆるとむし正風的美濃の雪と」刻まれている。柳井正風美濃派六世宗近の理主坊が美濃国(岐阜県)の耕月庵で亡くなる時の辞世の句。

**「九条武子の歌碑」**：「はなみけと花のこころにふれぬ日はつれづれもまたさしかりけり」と刻まれている。1926(大正15)年誓光寺仏教婦人会創立50周年大会に本部長として臨席の際の歌。

**「イブキバクシン(雌株やないの名木)」**：山門の前に立つ古木で高さ約4m、目通り幹囲148cm。

**「ヒマラヤスギ(雄株やないの名木)」**：境内にある。大木といふはれ、球果をこれほど多数つける雌株は柳井市内にはほかにないといわれている。

**「センタン」(やないの名木)」**：基地の南西隅に立つ。高さ約8m、5月中旬から花は咲きはじり、果実は年々越えて木にぶら下がっている。

㊵ 誓光寺山公園(庭石山跡)

誓光寺の西側の丸山にある。4月上旬にはカワが咲き美しい。頂上から白壁の町並みと眺めることのできる景勝地。

㊶ 福田家(和と器の店ふた)

1898(明治31)年新築。2軒分の宅地上に1軒と建築したため家の中央に水路がある。

**「旧住友銀行跡(震野路通りに建設当時の絵あり)」**：1912(大正元)年開業。海外移民からの送金と深くかかわっていた。1969(昭和44)年閉店し解体されたが、しご造りの壁がわずかに現存している。

㊷ 福田時計店

県内で最も古い時計店。

㊸ 柳井市郷談会

